



# 健康の輪



編集●全国結核予防婦人団体連絡協議会事務局(結核予防会内) 題字●初代会長 廣瀬勝代

## 第69回結核予防全国大会開催



大会式典にてお言葉を述べられる秋篠宮妃殿下

平成30年2月14日、広島県のリーガロイヤルホテル広島において、秋篠宮妃殿下の御臨席を仰ぎ、第69回結核予防全国大会が開催されました。

また、同大会で第21回秩父宮妃記念結核予防功労表彰式が行われ、本協議会からも事業功労賞団体部門で広島県地域女性団体連絡協議会、個人部門で小玉喜久子氏並びに中島祐子氏が受賞し、秋篠宮妃殿下より表彰状が授与されました。

(秋篠宮妃殿下のお言葉は本誌2ページに記載)

## 第22回結核予防関係婦人団体中央講習会開催

平成30年2月27日・28日の2日間、東京都千代田区のKKRホテル東京において秋篠宮妃殿下よりお言葉を賜り、第22回結核予防関係婦人団体中央講習会が開催されました。

全国各地より103名が参加し、結核、COPD、機能性表示食品などについての貴重な講演や班別討議が行われ、充実した内容の2日間となりました。

(秋篠宮妃殿下のお言葉は本誌2ページに記載)



開講式にてお言葉を述べられる秋篠宮妃殿下

## 第六十九回結核予防全国大会 おことば

平成三十年二月十四日（広島県）

本日、「第六十九回結核予防全国大会」が、ここ広島県において開催され、全国からお集まりの皆さまにお会いできましたことを、大変うれしく思います。

はじめに、第二十一回「秩父宮妃記念結核予防功労賞」の表彰を受けられる皆さまに、心よりお祝い申し上げます。長年にわたり、結核の予防や対策に取り組んでこられましたご努力に対し、深く敬意を表します。

日本の結核罹患率は、年々低下していますが、二〇一六年の統計では、十万対十三・九であり、一年間に約一万七千人が新たに結核を発症しました。新たな結核患者の約三割が八十歳代であるなど、結核患者に占める高齢者の割合が高まり、その多くは、糖尿病などの生活習慣病、認知症やその他の疾病の治療も、必要とされています。また、二〇一六年の外国生まれの結核患者数は約千三百人で、三年連続して増加しました。その出身地は四十か国以上に及び、患者と医療従事者とのコミュニケーションに課題が生じることもあって伺っています。受診や診断の遅れによる集団感染もありました。

昨日の研鑽集会では、結核医療の地域連携についての基調講演に続き、結核診療の現状、高齢の結核患者に対する退院支援、外国生まれの結核患者への支援、産業医と結核との関わり、婦人会の活動などについて、貴重なお話を伺いました。今後、全国各地で結核対策を進める方々が協力し、日本を二〇二〇年までに結核の低まん延国にする、という目標の達成に向けて、早期発見と支援の輪を広げていく大切な機会になったのではないかと思います。

世界に目を向けますと、二〇一六年には、およそ千四百万人が新たに結核を発症し、約百七十万人が命を落としています。結核罹患率が高い国々に対して、患者の発見や治療のための人材育成、保健医療システムの構築など、日本の経験を活かした協力が求められています。

結核予防会は、国の内外で、重要な役割を果たしています。本大会に参加されている皆さまが、日頃より結核予防活動をはじめとする肺の健康のための活動に力を尽くされていることに、感謝いたします。

これからも、皆さまがご自身の健康に留意されながら、人々の健康を支えるためにご活躍くださいますよう心から願ひ、式典に寄せる言葉といたします。

## 第二十二回結核予防関係婦人団体中央講習会 おことば

平成三十年二月二十七日

本日、「第二十二回結核予防関係婦人団体中央講習会」の開講式にあたり、全国からお集まりの皆さまにお会いできましたことを、大変うれしく思います。

かつて国民病と恐れられていた結核も、結核予防婦人会の皆さまをはじめ多くの人々のたゆまぬ努力により対策が進められ、昨年、国内の新たな結核患者数は一万七千六百二十五人と、前年より六百五十五人少なくなりました。

しかし、日本は、欧米と比較いたしますと、依然として結核罹患率の高い中まん延国です。また、結核患者の約六割が七十歳以上という高齢化の進行や、二十代の患者のうち、半数以上が外国生まれの人であるなど、様々な課題もみられます。

世界に目を向けますと、二〇一六年には約千四百万人が結核を発症し、約百七十万人が命を落としています。患者の多くは、人口の多いアジアと、結核とHIVとの二重感染が問題になっているアフリカで発病しています。人々が国境を越えて移動する今日、世界の結核を減らすことは、国内の結核をなくすためにも、大切なことでしょう。

昨年、全国結核予防婦人団体連絡協議会は、創立四十周年の節目を迎えられました。三月に、「国際結核肺疾患予防連合アジア太平洋地域学術大会」が日本でおこなわれた際には、後援団体として、シンポジウムを共同企画されました。八月には、創立四十周年記念「婦人の国際会議」を開催されました。また、十月には、結核やCOPD（慢性閉塞性肺疾患）の予防に関わる長年の意義深い活動により、「保健文化賞」を受賞されました。

皆さまの活動が高く評価されていることを、まことに喜ばしく思います。長い間、人々の結核予防に対する知識を高めるとともに、行政と地域の人々との架け橋となつて大きな役割を果たしてこられましたことに、深く敬意を表します。

本日と明日の二日間にわたる講習会では、結核やCOPDなどの講義や班別討議がおこなわれます。ここに集われている皆さまが、新たな知識を修得され、経験を伝え合い、お互いに理解を深める、貴重な機会となることでしょう。そして、この講習会が今後のよりよい実践へとつながり、結核予防をはじめとする人々の健康を守る活動が進められますことを、期待しています。

皆さまには、どうぞお身体を大事にされ、今後も各地域でご活躍くださいますようお願い、開講式に寄せる言葉といたします。

## 結核予防活動における保健師のはたらき

結核予防会総裁 秋篠宮紀子

## 保健師について詠んだ歌

今年1月12日、皇居の宮殿で、恒例の歌会始の儀がおこなわれました。この様子は新聞やテレビなどで紹介されましたので、ご覧になった方もいらっしゃるでしょう。

「歌会」は、人々が同じ一つの題で和歌を詠み、その歌を読み上げる会です。宮内庁のホームページには、歌会が奈良時代におこなわれていたことを「万葉集」で知ることができるとの説明があります。

年の初めにおこなわれる歌会を「歌会始」と呼びます。宮中での歌会始の記録は、鎌倉時代にさかのぼるといわれています。

現在では、毎年お題が宮内庁より発表され、広く国内外から、歌の詠進を募集します。その中から選ばれた歌が、歌会始で古式にのっとり朗詠されます。

今年の歌会始のお題は、「語」でした。そこで私は、さまざまな機会にお会いした結核対策に携わる保健師や母子保健関係の保健師などから伺ったお話を通して学んだことを思い出しました。そして、地域の人々を大切に思いながら日々努力されている保健師についてお伝えできたらと思い、次の歌を詠みました。

人々の  
暮らしに寄りそふ  
保健師らの  
語る言葉に  
われ学びけり



平成30年 宮殿松の間での歌会始の儀

後日、結核予防活動などを進めている保健師や関係者が、この歌への感想をお寄せくださいました。保健師方が、自分たちの仕事をいろいろな人に知っていただく良い機会になった、この仕事を続けてきてよかった、と喜んでくださり、私もとてもうれしく感じました。

今回は、結核予防活動に携わる保健師が果たす重要な役割についてお伝えします。

## 結核研究所での研修

昨年12月に複十字病院を訪問したとき、隣接する結核研究所で、保健師、看護師が参加していた結核対策研修を見学しました。

結核予防会では、1939（昭和14）年の設立後早い時期から、保健師や看護師の研修を始めました。戦中戦後に一時中断しましたが、1946（昭和21）年に再開し、今日まで継続しています。

現在、結核研究所では、全国の保健師や看護師を対象にした結核対策の研修を5コース、1年間で合計8回おこなっています。昨年見学したコースで講師を務めたのは、結核研究所に所属する医師や保健師でした。期間は4日間で、患者が結核に感染してから発病するまでの経過、病院での診断と治療法、保健所への届出や患者の登録などの手続き、接触者健診の基礎、長期にわたる結核患者の服薬支援（DOTS）、院内感染対策などを集中的に学びます。

私も、短い時間でしたが、DOTSについて、参加者と一緒に聴講しました。DOTSについては、結核予防婦人会の講習会で、すでにお聞きになった方もいらっしゃるかもしれませんが。

DOTSでは、結核患者一人ひとりについての計画を立て、6か月の服薬期間中、毎日薬を服用できるように指導し、完治を目指します。そこで、地域の保健師は、と

### 3. 日本版DOTSの生成と確立

治療開始時および治療期間中、患者本人に対して病気の受け止めを確認し、治そうという気持ちを持たせる看護職の支援は重要です。そのため、患者本人に、対面で、飲めたかどうかを確認することが基本となります。

患者さんから本当のことを言ってもらえるような信頼関係が築けていますか？



研修資料より

でも大切な役割を果たしています。

日本では、結核の治療に公費負担制度があり、患者にかかる入院や治療薬の費用などの経済的負担は可能なかぎり抑えられています。しかし、薬には副作用があり、発熱や咳などの症状が治まった患者が自宅や学校、職場などでの日常生活に戻ってからは、薬を毎日服用することが難しくなることもあります。そこで、医療機関と保健所が連携して、患者それぞれに応じた方法で服薬を確認しています。

#### 保健師は日本型DOTSの要

保健師の結核患者支援の基本は、患者本人に薬を服用できたかどうかを対面で確認し、服薬を継続できるよう支援することです。入院した患者の服薬は、看護師などが毎回確認します。また、退院後の治療と患者の支援に向けて、地域の保健師が入院中の患者を訪問することで、信頼関係を築き、医療機関と情報を共有します。

菌検査が陰性で入院するほど病状が重くない患者と、退院後の患

者については、保健所、医療機関、介護関係者などが連携して、患者が治療を終えるまで服薬を続けられるように支援しています。患者の状況に応じて、保健所や福祉事務所、診療所などに来てもらい、服薬支援者の前で薬を服用する「外来DOTS」、保健師が自宅を訪問して服薬確認をする「訪問DOTS」、あるいは、保健師が電話やメールなどで患者に連絡し服薬確認をする「連絡確認DOTS」などの方法をとります。

この講義では、患者が6か月間途切れなく服薬を続けるのはとても難しく、服薬の中断がよく見られることを理解して、DOTSに取り組んでほしいというお話がありました。患者が通う学校や働く企業などに、結核を治療しながら通学・就労することについて理解してもらい、服薬支援を依頼することもあるそうです。

患者の心配や気がかりなことを丁寧に聞き、不安を減らすように努めることは、服薬治療を続けてもらう上で大切です。また、結核は、せきやくしゃみなどで周りの

人に感染する病気なので、患者の人間関係にも影響があり、精神的な問題や社会生活の適応にも配慮が必要です。このような講義を聞くことによって、患者に寄りそう保健師の仕事の細やかさと難しさが、改めてよくわかりました。

#### 結核予防全国大会にて

今年の2月には広島市で、結核予防全国大会が開催されました。大会では、結核対策に特に功績のあった個人と団体に「秩父宮妃記念結核予防功労賞」が授与されます。

今年を受賞者の中には、保健師が三人いらっしゃり、懇親会で日頃の活動についてお話を伺いました。毎年、受賞した保健師にお会いするたびに、地域の人々の健康作りに強い責任感を持ち、日々努力を重ねていらっしゃるご経験から、多くのことを学んでおります。

また、全国大会では、研鑽集会での講演やシンポジウムでも、開催地での結核予防活動について、医師、保健師、福祉関係者や結核予防婦人会などさまざまな立場からのお話を伺う機会があります。婦人会との懇談会もあり、貴重な出会いと学びの場であると感じております。

保健師の活動は、これから日本が結核の低蔓延国を目指していく上で、大変重要な役目を担っています。私たちも、こうした保健師の役割をよく理解し、患者の治療や完治した後の生活を社会全体で支えるための助けになるよう努めていければと思います。

## 第69回結核予防全国大会決議

2015年に改正された「結核に関する特定感染症予防指針」において、日本の結核罹患率を2020年までに人口10万対10以下の低まん延状態にすることが目標に掲げられました。

2016年の「結核の統計」によると、新登録患者数は17,625人、罹患率は人口10万対13.9、また10の道県が低まん延状態になりました。患者の高齢化が進んでおり、75歳以上が半数を占めています。高齢結核患者は合併症を持つことが多く、発見が遅れて、重症化や周囲への感染拡大の原因になる場合があります。外国出生患者は全患者の7.6%、特に20歳代では60%近くを占めています。発見の遅れが原因となり、学校や職場等における集団感染事例も発生しています。このような中で目標を達成するためには、ハイリスクグループに対する早期発見や潜在性結核感染症治療の徹底、日本版DOTSに基づく様々な機関や職種との連携による患者中心の支援の強化、さらに合併症対応や必要病床数の減少に合わせた医療提供体制の再整備を進める必要があります。

一方、世界保健機関（WHO）の推計では、2016年に世界で1,040万人が新たに結核に罹患

し、その10%がHIV合併結核、多剤耐性結核は49万人、結核による死亡者は約170万人と、単一の病原体による感染症としては死亡の第1位でした。WHOが進めている結核終息戦略では、2035年までに世界の結核罹患率を人口10万対10以下にして、結核による破滅的な経済負担を強いられる世帯を皆無にするという意欲的な目標が設定されています。この目標の達成のために、患者中心の予防と医療、すべての人々が必要な医療を受けられるようにするユニバーサル・ヘルス・カバレッジ、骨太の政策と支援システム、研究と技術革新の強化を柱とした対策が必要とされています。この促進のために、世界的な取り組みが始められており、2018年秋には国連総会に合わせて国家元首級による結核に関するハイレベル会合が開催される予定で、日本の役割も期待されています。日本は、高まん延期より官民一体で推進した対策の実績や、日本が開発した新技術の活用により世界の結核終息戦略に貢献できると考えられます。さらに、こうした経験を広く「肺の健康」や生活習慣病予防に役立てることも重要です。

以上のことから、本大会は、

国、地方公共団体、医療機関、結核予防会、全国結核予防婦人団体連絡協議会等の関係団体が力を合わせて、次の6項目について努力することを決議します。

- 一、日本における2020年までの低まん延化の実現を達成するため、効率的かつ効果的な結核対策を進めること。
- 一、地域の実情に合わせた患者中心の医療や支援を推進するために、医療提供体制の整備や連携の強化を図ること。
- 一、世界の結核終息戦略の推進に協力し、日本の経験や新しい技術を活かすこと。
- 一、全国結核予防婦人団体連絡協議会等、関係団体と連携して、国際協力の貴重な財源ともなる複十字シール運動を盛り上げる等により、結核に関する正しい知識の普及・啓発を行うこと。
- 一、「肺の健康」を守るため、肺がん、COPDや喫煙対策等に関する普及・啓発を推進すること。
- 一、生活習慣病予防における指針のもと、特定健診・特定保健指導について円滑な実施の支援を行うこと。

平成30年2月14日  
第69回結核予防全国大会

## 第69回結核予防全国大会宣言

2020年までの結核低まん延化を目標に、高齢者・ハイリスクグループへの対策を強化し、患者中心の服薬支援や治療を推進します。また地域の実情に合った結核医療体制の整備をさらに進め、正しい知識の一層の普及・

啓発に努めます。各地域ではより効果的な結核対策の実施とともに、「肺の健康」と生活習慣病予防の推進に取り組みます。

さらに、世界保健機関が進める結核終息戦略に協力し、日本が高まん延期を克服した経験と

日本で開発された新技術を活かしながら、世界の低まん延化に向けて一層の支援に取り組みます。以上、宣言します。

平成30年2月14日  
第69回結核予防全国大会

## 第69回結核予防全国大会を終えて

広島県地域女性団体連絡協議会  
会長 佐藤 浩子



結核予防会総裁秋篠宮妃殿下のご臨席を仰ぎ、第69回結核予防全国大会が広島県で開催されました。2月

13日(火)、14日(水)の開催日は全国的に寒波の襲来で、各地で大雪となり交通機関が大幅に乱れるという状況になりました。そのような中、全国各地からご参加いただきました結核予防関係団体の皆様から感謝申し上げます。

また、全国大会開催に向けて結核予防会をはじめ多くの関係団体より運営委員会が組織され、大会を滞りなく運営していただきました皆様に厚くお礼申し上げます。

広島県での結核予防大会は「せとうち広島から、結核のない世界をめざして」をスローガンに開催されました。研鑽集会では「結核の低まん延化を踏まえて、すすめよう、広げよう早期発見と支援の輪」をテーマに基調講演、シンポジウムが行われ、広島県における結核診療の状況や外国出生結核患者への取り組みなどを学びました。広島県での結

核罹患率は、全国平均より低値であるが最近では低下率が鈍化している、早期発見・早期治療のために、これからもさらに結核予防の知識の普及が重要であると話されました。

当会では、複十字シールによる募金と合わせて結核予防の知識の普及活動も結核予防の主な活動として取り組んでまいりました。これらの活動を永年にわたって実施していることが評価され、第21回秩父宮妃記念結核予防事業功労賞(団体部門)を受賞させていただきました。会員一同大きな喜びであり、これからの活動の励みとなりました。

妃殿下とのお茶会では、各県婦人会女性会の会長、広島県の女性会役員が出席し、お茶とお菓子をいただきながら各県の活動状況を和やかな雰囲気でお話しさせていただきました。お優しい妃殿下のお言葉に感激いたしました。

大会式典では第69回結核予防全国大会宣言文を発表する栄誉をいただき、これから取り組むべき大切な要旨を発表させていただきました。これからも大会宣言を胸に、全国各地の皆様と力を合わせ結核予防活動に邁進していきたいと考えています。🍷

### 第21回秩父宮妃記念 結核予防功労賞を受賞して

#### 事業功労賞(団体)

### 佐藤 浩子

広島県地域女性団体連絡協議会  
会長



広島県地域女性団体連絡協議会は今年創立70周年を迎えます。このような節目の年に第69回結核予

防全国大会が広島県で開催され、私たちにとりましてたいへん記念すべき全国大会になりました。

大会当日の2月13日、14日は全国的に寒波の襲来で、広島でもたいへん寒い日となりましたが、全国各地からたくさんの方にご参加いただき心から感謝申し上げます。

秋篠宮妃殿下ご臨席の大会式典におきまして、秩父宮妃記念結核予防事業功労賞(団体部門)という栄誉にあずかり会員一同光栄に感じるとともに、大きな喜びとこれからの結核予防の活動の励みとなりました。

広島県の結核罹患率は11.4であり、低まん延状態まであと一歩という状況にあります。当会では活動目標の一つに「健康」を挙げ、さまざまな事業を展開しています。結核予防に関しては、結核予防週間に複十字シール募金による結核予防の啓発活動を行ったり、各市町における健康福祉祭り等のイベント開催時にピンクリボン運動、がん健診と合わせて結核予防のブースを開設し積極的に啓発活動を実施しています。いずれも早期発見のための健診の大切さをお話ししてご理解いただけるようがんばっています。また、結核予防会の機関誌「複十字」から多くの情報を得ることができ、私たちの活動の知識の裏づけと、活動の力になっています。

患者の高齢化に伴う合併症患者の対策、外国出生患者の対策など、保健所、医療機関や各関係機関が協力して、2020年までに低まん延国への運動を広めていき、目標を達成したいものです。

結核予防全国大会開催地女性会として、結核予防会本部のご指示を仰ぎながら大会に臨みましたが、至らない点が多くあったと思います。皆様方のご支援ご協力をいただき、無事に大会を終えることができましたことを心から感謝申し上げます。🍷



大会式典



大会式典で宣言文を読み上げる佐藤会長

## 事業功労賞（個人）

### 小玉 喜久子

結核予防婦人会  
秋田県連合会  
会長



第69回結核予防全国大会が、平成30年2月13日、14日に広島市で、総裁秋篠宮妃殿下のご臨席を賜り開催されました。

大会式典において第21回秩父宮妃記念結核予防事業功労賞（個人）を拝受いたしました。

思えば、平成7年7月の御殿場講習会に、初めての参加がきまり、当時の結核予防会名誉総裁秩父宮妃殿下との懇談があるということで、緊張して出席。しかし、突然、体調を崩され、宮内庁病院にご入院されたとのことで、御殿場東山荘に泊まっていた私たちは、座長一同で集まり、ご快癒を祈って色紙に寄せ書きをしてお見舞いしました。また、御殿場ご別邸のお庭の花も一緒にお届けし、大変喜ばれたということでした。8月、名誉総裁秩父宮妃殿下は、薨去されました。23年前のことがよみがえり、今回の秩父宮妃記念結核予防功労賞受賞者となったことが、ご縁に感じられ、大きな感慨をもちました。御殿場講習会への参加は、折にふれ、今でも励みとなっております。

今後は、結核予防知識の普及啓発に努め、結核のない世界をめざして、「家庭でできる国際協力」と複十字シール募金運動に、さらに力を注ぎたいと思います。

今回の受賞は、地域団体のみなさまのご協力によりいただいた栄誉だと感じております。結核予防会をはじめ、県の関係者のみなさまには、心から感謝申し上げます。ありがとうございました。

大会式典で、「秩父宮妃記念結核予防功労賞」受賞者表彰の折、

総裁秋篠宮妃殿下より、微笑みながら「これからも結核予防、がんばってください」と優しいお言葉を頂戴し、表彰状を手渡され、ありがたく、感動で胸がいっぱいになりました。

この感動を忘れることなく、地域での結核予防活動の輪を広げたいと強く思います。がん対策、たばこによる健康被害、健診のすすめなど、できる活動に努力してまいります。

広島大会の研鑽集会での示唆に富んだ内容を糧といたします。関係者のみなさまに深く御礼を申し上げます。ありがとうございました。🐱

## 事業功労賞（個人）

### 中島 祐子

奈良県健康を守る  
婦人の会  
会長



この度、第21回秩父宮妃記念結核予防功労賞受賞誠にありがとうございました。深く感謝申し上げます。

私は、ただ「すこやかに」を合言葉に地域・家庭・仲間を通して健康づくりの一環として「健康を守る婦人の会」の使命に従ったまでのことで、今回の受賞にはほんとうに驚いております。ありがとうございました。重ねて御礼申し上げます。

今、過去を振り返り、数々の研修会・講習会に伴うシール運動に、自分自身どれだけ真摯に取り組むことができたのだろうか、結核に対する知識の普及はどうだったのか……等々改めて結核・肺疾患の予防に対する運動の重責を噛みしめながら、自己反省と共に今後結核制圧への新しい取組はいかにあるべきか模索しながら、自分自身の行動を見つめ直しているところでございます。

余儀なくされた数々の研修会・

講習会の中でも特に印象に残っているのは、あの御殿場研修会です。遊び半分の軽い気持ちで参加させていただいたところ、結核制圧への知識の高揚、それに伴う国際理解・感覚を体得するハードなスケジュール、結核対策の熱意と結核予防における女性の役割に強い感銘を受けたのは事実です。

特にお席を同じくしてご講義を拝聴されました、故勢津子妃殿下の心の叫びと優しい眼差しに、過去を正しく理解し、先人の優れた業績に学ぶ姿勢がいかに大切であるかを学ばせていただきました。

ところが、過去を知らない若い世代は、「結核なんて昔の病気、古いよ」と簡単に片づけてしまう。医療機関の進展と共に高度な治療等々で、結核は確かに減少しているのはありがたいです。が、今なお主要な感染症であることは忘れないでほしいです。その大きな対策の一つが複十字シール運動であることをご確認ください。

最後に老婆心ながら申し上げます。成人病と同等の扱いで、結核集団健診の推進など、予防の醸成がシール運動の重要性に繋がるのではと……。いずれにせよしっかり学ぶことの大切さを一般住民に啓発するのが複十字シール運動の本質であることをどうぞご理解ください。そしてご協力ください。

そして、地域・仲間・家族すべてに寛容でありたいですね。

毎年、秋の彼岸花が田んぼの土手に咲き誇る頃には、結核予防に対する複十字シール運動の花も一斉に咲き、「シール運動にご協力を」の声がさわやかな田園風景にこだまします。

ひとつ ひとつの小さな歩みは  
ひそかな 心のよろこびとなる

皆さん、頑張りましょう。🐱

写真で  
振り返る



# 第22回 結核予防関係婦人団体中央講習会

(2月27日・28日 KKRホテル東京)



全国各地の婦人会から103名受講されました



結核研究所 森 亨 名誉所長に『結核の基礎知識とBCGワクチン』についてご講演いただきました



結核予防会本部 加藤 久幸 審議役(薬剤師)に『たばこ病COPDとこれからの薬剤師の使命』についてご講演いただきました



医薬情報研究所 株式会社エス・アイ・シー 取締役/医薬情報部門責任者の堀美智子先生に『知ってますか? 食品の表示!! 一機能性表示食品』についてご講演いただきました



東京家政学院大学現代生活学部健康栄養学科 松田 正己 教授に『結核予防婦人会活動について』のご講演をいただきました



班別討議オリエンテーション 慶應義塾大学商学部 吉川 肇子 教授



班ごとに分かれて、ある課題について話し合っている様子



終講式では受講生代表として 大阪市地域女性団体協議会 中川 清枝様より 謝辞をいただきました

## 中央講習会スケジュール

テーマ：自分の健康は自分で作る ～国民運動への展開～

●第1日 2月27日(火)●

●第2日 2月28日(水)●

13:10 開講式 13:10~13:40  
 主催者挨拶 結核予防婦人会 会長  
 主催者挨拶 結核予防会 理事長  
 総裁おことば 秋篠宮妃殿下  
 来賓挨拶 厚生労働省 健康局長  
 健康の歌斉唱

13:50 写真撮影 13:50~14:05

14:15 講演①(60分) 14:15~15:15  
 『結核の基礎知識とBCGワクチン』  
 公益財団法人結核予防会結核研究所 名誉所長 森 亨

15:25 講演②(40分) 15:25~16:05  
 『たばこ病COPDとこれからの薬剤師の使命』  
 公益財団法人結核予防会 審議役(薬剤師) 加藤 久幸

16:15 講演③(40分) 16:15~16:55  
 『知ってますか? 食品の表示!! 一機能性表示食品』  
 医薬情報研究所 株式会社エス・アイ・シー  
 取締役/医薬情報部門責任者 堀 美智子

8:30 講演④(30分) 8:30~9:00  
 『結核予防婦人会活動について』  
 東京家政学院大学現代生活学部  
 健康栄養学科教授 松田 正己

9:10 班別討議⑤(140分) 9:10~11:30  
 《考える・まとめる—計画を立てる—》  
 「クロスロードで考える婦人会活動・複十字シール運動の活性化」  
 慶應義塾大学商学部 教授 博士(文学) 吉川 肇子  
 全体発表会・総評

11:40 婦人会の皆様へ(20分) 11:40~12:00

12:00 終講式 12:00~12:20  
 主催者挨拶 結核予防婦人会 会長  
 主催者挨拶 結核予防会 理事長  
 修了証授与 結核予防会 専務理事  
 受講生代表挨拶  
 蛍の光斉唱



## 公益社団法人全国結核予防婦人団体連絡協議会 理事・監事就任ご挨拶

〈理事〉  
（山口県結核予防婦人会会長）  
藤家 幸子



この度、理事就任という重責に身が引き締まる思いでございます。結核予防啓発活動に、心新たに取り組む所存でございます。

幼児教育に携わっていた頃、複十字シールの原画を提供していた

だいています安野光雅先生の著書「ふしぎなえ」、「旅の絵本」、「さかさま」（福音館書店）等、不思議な世界と抒情詩が織りなす画風に引き付けられ、日本の童画全集（第一法規出版株式会社）を手にしたものでした。

島根県津和野町出身ではありますが、山口県徳山市（現周南市）で小学校の教師をしておられたそうで、身近に親しく感じられます。近く小グループで津和野の安野

光雅美術館へ出かけ作風の奥深さに触れてきます。

芸術選奨文部大臣新人賞をはじめ数多くの賞を受賞されておられ、特に欧米諸国で高く評価され、外国の美術賞をかぞえきれない程受賞されておられるそうです。

世界的な安野光雅先生がシールに託された思いにしっかりお応えしなければと強く思います。🐱

〈監事〉  
（茨城県健康をまもる女性団体連絡会会長）  
櫻井 よう子



この度、全国結核予防婦人団体連絡協議会監事就任に際し、全国婦人会の皆様と共に、仕事を全うしてい

きたいと存じます。

結核に関しては、7年前には芸能人が肺結核になりTVにて結核の恐ろしさを放映されましたがまだ理解が十分ではなく、世界に目を向けると170万人（HIV陽性者を含む）も結核で亡くなっていると平成28年の調査では残っています。私達各婦人会が地域活動によ

り、複十字シール募金活動等、あらゆる場面での努力が必要だと再認識しております。

更に意識を高めてもらうために、官民一体となり、結核に対する正しい知識を一人一人が理解し、結核予防活動に励んでまいりたいと思います。🐱

### 平成30年度複十字シールの紹介

## ～大きな森の小さな家～

今年も安野光雅（あんのみつまさ）先生による複十字シールが出来上がりました。

アメリカ西部開拓時代、大自然に囲まれて暮らす少女ローラと家族の心温まる物語、『大きな森の小さな家』（ローラ・インガルス・ワイルダー作）の世界が広がります。

昭和50年からNHKで放映されたテレビドラマ・シリーズ「大草原の小さな家」はこの本を原作としています。懐かしく思い出される方も多いのではないのでしょうか？

昨年3月、安野先生は、美しい挿絵が満載の「小さな家のローラ」（朝日出版社）を出版されました。今回、その本をもとに、健康を願うメッセージを込めて、描いていただきました。

皆さまのアイデアで活用いただき、複十字シール運動の輪を広げていただければ幸いです。

公益財団法人結核予防会・募金推進部



## 被災地支援「心の絆プロジェクト2017」レポート

一般社団法人心の絆プロジェクトが主催して2011年7月に立ち上がった「心の絆プロジェクト」に、本協議会も結核予防会と共に共催しています。2017年のプロジェクト活動は、有志15名が自主参加して、平成29年11月12日（日）の午後に宮城県気仙沼市の内ノ脇（ないのわき）災害公営住宅集会所で「健康よろず相談会」を行いました。午前中、内ノ脇住宅の全144戸にお声がけし、午後からストレス相談、血圧測定、肺年齢測定、茶話会、運動セミナー、ギター演奏・合唱が行われ、本協議会は肺年齢測定を担当しました。健康よろず相談会への来場者は13名で、肺年齢測定に8名参加されまし

た。その模様は朝日新聞「ヒューマン・ケア心の絆 記念号外」(写真)で12月3日（日）に報じられました。

東北被災地の再興は未だ道半ばです。「会いに来てくれることが一番の支援!」と待ってくださっている人がいることを励みに、本協議会も東北に向かう志を持つメンバーの一員としてこれからも活動を続けていきたいと強く感じました。



朝日新聞「心の絆 記念号外」

## 複十字シール運動が始まります 運動期間8月1日～12月31日

今年も、公益社団法人全国結核予防婦人団体連絡協議会のご後援をいただき、8月1日から複十字シール運動が始まります。

結核の問題はまだ大きく、日本における新たな結核患者は年間約1万8千人、世界では毎日5千人近くもの人が結核で亡くなっています。

結核を中心とした胸の病気をなくして、健康で明るい社会をつくるための複十字シール運動の推進と複十字シール募金の実施にご協力をお願いいたします。

結核のない健康で明るい社会をつくりましょう!



シールぼうや

シールちゃん

皆さまには、運動開始にあたって、各都道府県知事への表敬訪問を通じて運動への協力を依頼いただいています。また、結核予防週間（9月24日～30日）にあわせて実施される「全国一斉複十字シール運動キャンペーン」におきましても、街頭募金や結核予防の呼びかけについて、引き続きご協力いただきたくお願いいたします。

公益財団法人結核予防会  
募金推進部

# 結核予防会 寄付型 自動販売機 設置のお願い



設置オーナー様を募集しています。

飲料の売り上げの一部が、日本と世界から結核をなくすための活動や、肺がん・COPD(慢性閉塞性肺疾患)の啓発活動の資金として、結核予防会へ寄付されます。

**POINT①** 寄付金額は任意に設定できます。

**POINT②** 自動販売機の設置や置換えは無料です。

ご協力をお願い致します



「シールぼうや」

お気軽にご連絡ください！

自動販売機設置のお申込み・お問合せ

フリーダイヤル  
0120-937-650

特定非営利活動法人  
寄付型自動販売機普及協会  
東京都世田谷区奥沢 7-20-19  
九品仏駅前ビル 3階

寄付の使用用途に関するお問合せ

公益財団法人結核予防会  
(募金推進部)TEL:03-3292-9287



福岡県のテニスコート  
右は木下婦人会長



結核予防会本部フロア  
シールぼうや・工藤理事長



結核予防会本部ビルの前  
工藤理事長・シールぼうや

複十字シール運動マスコットキャラクターシールぼうやが

## LINE スタンプになりました！

結核とたたかう  
シールぼうやと  
シールちゃん

24個  
120円

LINE スタンプショップで検索

シールぼうや 検索


©seelbouya2018



### 編集後記

シールぼうやの寄付型自動販売機（上の写真の結核予防会本部フロア）で飲み物を買うことが多くなりました。また、家族とスマホのLINEで連絡する時に、シールぼうやのスタンプを使っています。お友達へのプレゼントや、気に入って自分で買ってくれたお友達がいて、だんだん広がっています。

複十字シール運動が生活に密着し始めているのを嬉しく実感しています。みなさんもぜひどうぞ。

(三) 

## ちふれ化粧品は・・・

「誰もが手に入れやすく、安心してつかえる化粧品を。」という思いを込めて創り出した私たちの化粧品です。



## ちふれが、約束すること。

- **高品質・適正価格であること。**  
製造や販売にかかる余分なコストを削減して、高品質を適正な価格でお届けします。
- **無香料・無着色であること。**  
肌によさしくありたい。だから、ちふれのスキンケアはすべて無香料・無着色です。
- **全成分・分量・配合目的を公開すること。**  
品質の確かさや商品の安全性だけでなく、自分の肌に合った化粧品の内容を知っていただくためにも、すべての製品の全成分・分量とその配合目的を公開しています。
- **製造年月をすべての容器に表示すること。**  
誰にもわかりやすく、安心して使えるように、製造記号を製造年月で表示しています。
- **環境問題に配慮すること。**  
毎日使う化粧品だからこそ、環境を大切にしたい。ちふれは、詰替化粧品や植物由来容器の導入などで、環境問題に配慮しています。



## ちふれ

あなたの、健康のそばに。



大正製薬



## しあわせは、明日も健康であること。

人々の健康意識を高めること、日々の生活をOTC医薬品でサポートすること。  
それが「セルフメディケーション」をスローガンに掲げる私たち大正製薬の使命。

OTC医薬品のリーディングカンパニーとして、

より優れた医療用薬品の開発に力を入れるチャレンジャーとして、  
常に「生活者の健康でより豊かな暮らし」の実現を目指しています。